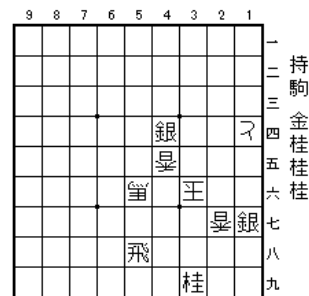


解説の部

(文中引用の短評・解説はすべて敬称略)

第1番



- ▲26金 △46玉 ▲38桂 △同馬 ▲35銀 △37玉
- ▲27金 △同馬 ▲38香 △同馬 ▲29桂 △同馬
- ▲26銀上△36玉 ▲56飛 △同馬 ▲28桂迄17手。

一枚の玉方駒(玉以外)を何回も動かすと、リズム感のある作品にすることができる。本作は56馬を動かしながら形を整える細かいやりとりが主軸。難しい仕掛けはないが、収束まで同じ感触で仕上げているので出来は悪くないと思う。

市原誠「まさか、飛が捌けるとは……(驚)」

加賀孝志「馬よ、よく頑張ってくれた。小気味よい桂の捨て方。お買い得です」

解説・濱川礼「難しくは無いが良く練られた構図、そして作者のセンスが光る、解答者をニヤリとさせるような小粋な作品」

(詰将棋パラダイス H18・3)

第2番



- ▲69角 △58と寄▲38金 △◎56玉▲68桂 △同銀成
- ▲78角 △同成銀 ▲66飛 △57玉 ▲47金 △同と
- ▲69飛迄13手。

◎36玉は35飛、26玉、18桂、17玉、15飛、16合、62角成、18玉、16飛で同手数駒余り。

かなり強引な逆算で、詰キストなら第一感で打ってしまうだろう角打ちをどうしても入れたかった。

小林理「打った角を消してそこに飛を引いて詰め上がる夢のような手順」
 …ということだが、大駒4枚はやはり強く、少し配置にしわ寄せが来た感は否めない。それでも◎の変化を含め、よく割り切れたとは思ふ。

s s 「初手は第一感だが、飛車角の利きが交錯していて応接が難しい」

重田豊信「角の2段活用、また決め手となる金の2段活用が印象的」

A級順位戦の優勝作品だが、首位作が余詰不完全だったため全く威張れない。まあ長くやっていたれば、たまにそういうこともある、と。

(詰将棋パラダイス H22・6)

第3番



- ▲46金 △同玉 ▲73角 △36玉 ▲58角 △同飛成
- ▲27銀 △同玉 ▲37金 △28玉 ▲19龍 △同玉
- ▲38金 △18玉 ▲28角成迄15手。

5手目の限定打が狙いで、収束のために3手目は可成地点に打つのだが、ここが非限定(82・91でも良い)なのは痛いところ。また全体的に紛れ不足で、オマケに発表時は49銀をと金にしていたため、5手目27銀、同玉、28金で余詰。散々な結果になってしまった。

焦点への限定打は好きな手筋なので、これに懲りず、良い素材があれば、また創ってみたい。

真保千秋「いきなり69角では57に穴が開いてしまう。願わくは73角限定だが」

北極王「習いある手筋とはいえ、58角のインパクトは強烈」

(詰将棋パラダイス H18・6修正)

第4番



- ▲68龍 △67金 ▲同龍 △同玉 ▲56銀 △㊦同香
- ▲68歩 △同玉 ▲79銀 △69玉 ▲68銀 △同玉
- ▲69香 △77玉 ▲88金 △76玉 ▲79飛 △同馬
- ▲66馬迄19手。

㊦同玉は57馬、45玉、63角、34玉、36香、35歩、同馬以下早い。

“たくぼん”こと須川卓二さんからの依頼で、詰四会作品展に出品したもの。課題「田舎の曲詰」とのことで、熱烈なカープファンの須川氏に贈るべく、「C」の字とした。須川さんにはブログ「たくぼんの解図日記」でフェアリーの楽しさを教えていただいた。特にアンチキルケにはだいぶはまった記憶がある。

序奏でいきなり金谷を食いちぎる。私としてはかなり異質だが、次の中心手である56銀を引き立てる手順になっていると思う。㊦の変化が割り切れたのは運に恵まれた。桂消去のあたりは入玉図でなければ絶対に入れられない順で、この辺りは課題に感謝するしかない。

加藤清隆「大海に逃がす様な56銀が凄。この手の発見で視界が開けた。」

宮本慎一「あぶり出しアルファベット「C」

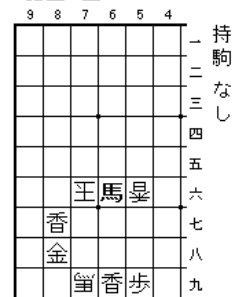
の詰上り。評価はとってもAです」

小林理「収束の美しさはまさに市島ワールド。

序の手広さが収束を盛り立てる」

(詰将棋パラダイス H21・9)

詰上り図



(たくぼんの解図日記 ⇒ <http://takubon-tumeshougi.269g.net/>)

第5番

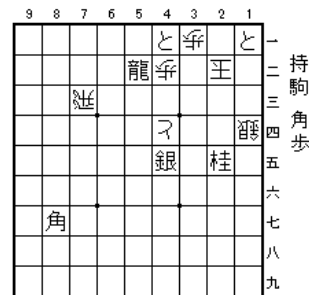


- ▲17銀 △同玉 ▲26銀 △16玉 ▲25銀 △15玉
- ▲24銀 △14玉 ▲23銀生△13玉 ▲12銀成△同玉
- ▲22飛 △同馬 ▲同と △13玉 ▲23と △14玉
- ▲24と △15玉 ▲25と △16玉 ▲26と △17玉
- ▲16と △同玉 ▲17歩 △同玉 ▲53角 △16玉
- ▲26角成迄31手。

歳をとると詰将棋の好みも変わるようで、軽い作品に愛着がわくようになった。「解けること」もパズルにおいては大事な要素ではないかと。本作は玉が吹き流しのように行って戻ってくる様を楽しむだけのオアソビ作。
さわやか風太郎「本当に一本道でしたが、なかなかの趣向です。詰め上がりもすっきりしていて、解後感のいい詰将棋でした」
安江久男「類似作があってもおかしくありませんが、自分にとっては未見の趣向でした。こういうのを好局という」
風みどり「オアソビ作品も私でも解けるから嬉しいです。もっとオアソビしてください」

(冬眠日記 H21・6)

第6番



- ▲13角 △◇23玉▲43龍 △33桂 ▲34龍 △同と
- ▲24歩 △同と ▲22角成△同玉 ▲21角成△23玉
- ▲13桂成△同玉 ▲12馬迄15手。

◇11玉は21角成、同玉、31と、11玉、12歩以下。同飛は42龍、32銀、同角成、同歩、33銀、同飛、同龍、同歩、21飛、32玉、31飛成、23玉、33龍で同手数駒余り。

休眠状態に入る直前の作品。この頃は、「何かしらのテーマを設定し、暗算で創作して、目途がついたところでPC検討」という手法で、盤駒は使っていない。本作は「43龍に33桂と移動捨合」で設定。普通に成立して自分で驚いたが、2手逆算した関係で普通の捨合になった。
原雅彦「意外性の連続でした」
二宮卓郎「43龍の妙手で決まらない奥深さ」
飯尾晃「5手目から急に行儀がよくなる」

テーマと収束のバランスが今一つでお蔵にしていたが、順位戦欠席回避理由にちゃっかり出してみた。それなりの評点(4.08)でホッ。

(詰将棋パラダイス H24・6)

第7番

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			龍	歩						一
			継							二
				と				馬		三
			科							四
		銀	王	王	王					五
										六
		香				香				七
						桂				八
										九

- ▲65と △同玉 ▲75金 △66玉 ▲76金 △同飛
- ▲65金 △77玉 ▲55馬 △同金 ▲76龍 △同玉
- ▲75飛 △86玉 ▲68馬 △77桂成▲85飛 △76玉
- ▲58馬 △同金 ▲75飛 △85玉 ▲87歩 △同成桂
- ▲95銀迄25手。

◎78玉は76龍、77金、56馬、69玉、68金、同金、同馬以下。

以前「詰棋めいと」で湯村光造氏が発表された「歩詰手筋総まくり」では、詰方と玉方の手段を「回避」「打開」「予防」といった用語で分類する手法で画期的な研究論文だった。本作品はそれに触発された、というわけではないが、「打歩詰打開を予防する手を回避する」という凝ったテーマ。

9手目55馬と捨てる手がそのテーマを担う伏線手。この手を入れずに76龍と作意とおりに進めると、途中までは同様に進むが、玉方は68馬に対して77桂生と変化する(次頁紛れ図)。以下はどのように進めても打歩詰を開閉できない。例えば同馬と取れば、同銀生、78桂、同銀成と成生を巧みに使い分けられる仕掛け。

55馬と捨てておくと、77桂生に対しては、85飛、76玉に67馬で詰むため、それを防ぐためには77桂成とするしかない。こうしておいて75飛~58馬と馬を消去すれば、成桂を縛る駒が無くなって87歩と打歩詰を開閉できる訳だ。

当初の図は紛れ順を際立たせるための飾り駒を配置しており、今回の機会に大幅に修正を施した。少し偏狭なのかもしれないが、やはり作意に関係ない駒は置かないようにするのが作家としてのマナーだと思う。

なお、48金をと金にしていたところ、奥鳥羽生氏から紛れ図の77桂生を桂成として85飛、76玉、58馬に67成桂でも不詰になる弱点を指摘いただいた。構想作としては不完全に近く、氏には感謝あるのみ。

さわやか風太郎「68馬に77桂生と打歩詰に逃げられるのを防ぐ5馬捨てが味わい深い手ですね。この打歩詰を巡る熾烈な攻防に酔いしました」
隣の老人 A「狙いは9手目の55馬と56金を移動させておく事でしょう。

55馬を飛ばして、77桂生の合駒に暫く悩みました。28馬は序盤で強力な助っ人に仕立てているのが流石に上手い。作者は62歩の配置がチョット気に入らないと、ポヤイテイル？」

まあ、仕方ないかなあ…。

(冬眠日記 H17・8改)

紛れ図(77桂生迄)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
										一
				歩						二
										三
										四
				飛	金					五
	銀	王			王					六
				科						七
		香			馬		王		馬	八
	香					桂				九

第8番



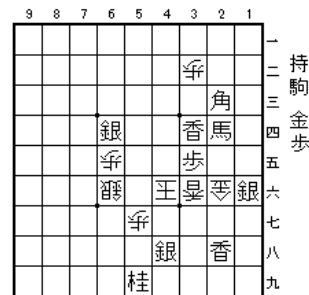
- ▲48銀 △同銀生 ▲58銀 △同香成 ▲83角成△57玉
- ▲66龍 △同桂 ▲46角 △同玉 ▲56馬迄11手。

母が漢字検定二級に合格したとのことで、お祝いに作った「二」の字のあぶりだし。その後も介護士の資格も取って元気いっぱい。父の分も長生きしてほしいと思う。

戯作ではあるが、銀生と58銀の不利感でなんとか水準か。最後67玉と逃げるのはご勘弁(笑)。

(冬眠日記 H22・7)

第9番



- ▲56金 △同玉 ▲33香成△46玉 ▲56角成△同玉
- ▲23馬 △34角 ▲同馬 △46玉 ▲56馬 △同玉
- ▲23角 △◎34桂▲同角成 △46玉 ▲38桂 △同香成
- ▲47歩 △36玉 ▲25銀 △同金 ▲同馬 △45玉
- ▲36馬 △同玉 ▲46金迄27手。

◎34角は同角生、46玉、47歩、35玉、24角以下。

第9番・第10番は岩田俊二氏とブログやメールでやりとりして作った合作。本作は、岩田氏の馬角変換の原作を元に、私の方で肉付けしたものだ。もともとの狙いの部分は◎の変化に隠し、馬と角で合駒が変わることで打歩打開させる。序奏の金捨て・角成捨ても含めて、リズムカルな手順と微妙な局面の変化を楽しんで欲しい。

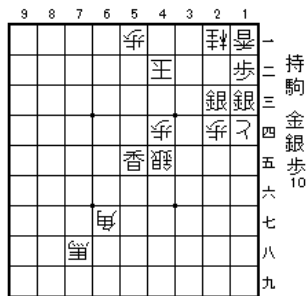
太田雅人「意味が理解できていないと、序盤で混乱してしまう」

昭和三十六才「47歩打を打歩詰にしないための大騒動」

二宮卓郎「角成と桂合がピッタリと決っているのは、見事です」

(詰将棋パラダイス H18・7)

第10番



- ▲43金 △同玉 ▲32銀打△33玉 ▲22銀右生△42玉
- ▲31銀右生△33玉▲34歩 △同銀 ▲22銀引生△42玉
- ▲43歩 △同銀 ▲同銀成 △同玉 ▲32銀打△42玉
- ▲31銀右生△33玉▲34歩 △同角生 ▲22銀引生△42玉
- ▲43歩 △同角 ▲同銀成 △同玉 ▲32角 △42玉
- ▲31銀生△◎33玉▲34歩 △同馬 ▲22銀引生△42玉
- ▲43歩 △同馬 ▲同角成 △同玉 ▲32角 △42玉
- ▲33銀成△◎同桂 ▲43歩 △31玉 ▲21角成△同玉
- ▲11歩成△同玉 ▲12歩 △21玉 ▲22歩 △31玉
- ▲32歩 △41玉 ▲42香迄57手。

◎同玉は21角成、同玉、11歩成、同玉、12歩、21玉、22歩、31玉、33香、42玉、32香成、43玉、35桂迄。
 ◎同玉は34歩、42玉、43歩、31玉、21角成、同玉、11歩成、同玉、12歩、21玉、33桂、31玉、32香迄同手数駒余り。

こちら岩田氏との合作だが、先の第9番とは逆で、趣向部分が私、岩田氏に全体的な構成を手掛けていただいた。角生・◎◎の適度な変化を入れた上、実戦形で仕上げられたのには本当に驚いた。このタイプの趣向では、か

なり上位の完成度と言っているのではないと思う。岩田氏のセンスには脱帽の一手。

中沢照夫「銀・角のはがし趣向。角生のアクセントが入るのがよい。31手目の31銀不成が成立して安心」

小峰耕希「22・31手目の虫の良さと緩みない着地で、単なる趣向作に留まらない解後感が得られる」

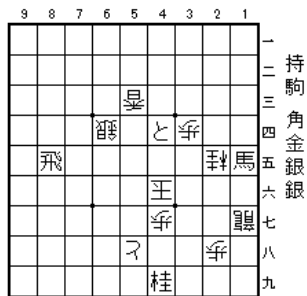
今川健一「雨上がる。涼風。樹の葉末から、ポツリ、ポツリと、雨の滴」

解説・岡村孝雄「1回目は普通に銀を剥がすが、2回目は角生、3回目には（32に角を打っているので）31同玉の変化。1枚毎に適度に考えさせていて面白い。32角の形で78馬が消えると、今度31銀生は33玉で打歩詰だが、33銀が可能になっている。初形を整えつつ収束にもからむ桂香は、巧い作図と感じさせる」

もともと気ままで、かつ短期集中型の創作が多いので、あまり自分には向いていないタイプと思うが、岩田氏のフォローが行き届いており、非常に爽やかな経験となった。また機会があれば、チャレンジしてみたい。

（詰将棋パラダイス H19・8）

第11番



- ▲◎35銀△同歩 ▲56金 △◎同香 ▲37銀△同桂成
- ▲45飛 △36玉 ▲18角 △27成桂▲46飛 △同玉
- ▲37馬 △同成桂 ▲45と迄15手。

◎同玉は23角、66玉、67銀、77玉、78銀、68玉、67角成以下早い。
◎先に56金は同玉、45角、46玉で逃れ。

うまく逆算できず長期間抱えていた素材。この年の順位戦の締切直前になぜか突然、この素材を思い出した。GWで実家に帰って並べたところで25桂配置を発見。そこからは一気に完成した。序の6手で金銀を全て捨てる不快感と鮮やかな収束で満足のいく作図。

凡骨生「56金の穴塞ぎから収束の駒線りは鮮やか」

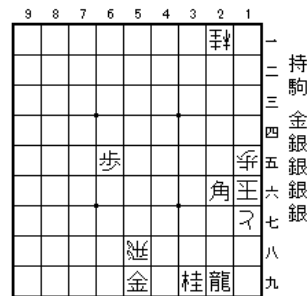
原雅彦「左下で詰まそうとした自分が情けない」

野口賢治「37銀と外堀を埋めるまでの手順に感心する。何と精緻なことか」

好評を得てB級順位戦首位。こういうツギがしょっちゅうあれば良いが、そう旨い話が続き苦もなく、毎年苦心惨憺している。参加者は皆いたりよったりかな。なお、初形のバランスを考えて、54香を53に変えた。

(詰将棋パラダイス H19・6改)

第12番



- ▲25銀 △同玉 ▲◎44角△◎27銀▲35金 △26玉
- ▲37銀 △同玉 ▲46銀 △同玉 ▲47銀 △37玉
- ▲36金 △同銀成 ▲48金 △同飛成 ▲26龍 △同成銀
- ▲55角迄19手。

◎34玉は24龍、43玉、32銀以下。27角合は同龍、同玉、34銀、同玉、35銀、43玉、34角以下。
◎53角成は28歩、35金、26玉、37銀、同玉、38銀、46玉で逃れ。

3手目44角が渋い一手。作意47銀のとき55玉を防止するわけだが、変化をとまないので53角成としたくなるどころだと思ふ。収束の3連捨てが狙いの手順。

山田和彦「第一感は53角成。44角は宙ぶりんで指しにくい。37銀以下」

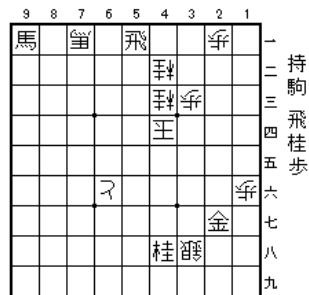
下手が続くのには驚いた。金と龍が消えて見事な収束」

天津包子「48金を見つけて作意に入ったと思った。大苦戦」

発表時は◎の角合が割り切れず愕然。65歩追加で修正したが、これにより若干3手目の味が落ちるのはちょっと残念。

(詰将棋パラダイス H17・11 修正)

第13番



- ▲③36桂打△③35玉▲26金 △同玉 ▲23飛 △35玉
 ▲24飛成△45玉 ▲54飛成△同桂 ▲46歩 △同桂
 ▲81馬 △同馬 ▲44龍迄15手。

③34玉は24飛、35玉、26金、45玉、44飛、同馬、46歩、34玉、25金以下。
 ③14飛は24香、同飛、35玉で逃れ。

順位戦は基本的に自由出品なので、前衛的な試みに向いた催し。本作は形にこだわらず、序の3手の不利感を狙った。16歩配置はやや残念だが、偶然入った③の変化が良いアクセントになっており、ますますの出来。

宮田卓也「もったいないような金のポイ捨てで、打歩詰が回避できた」

小野寺達也「かなりの時間を要した。金捨てから23飛に気付くのが遅れた。」

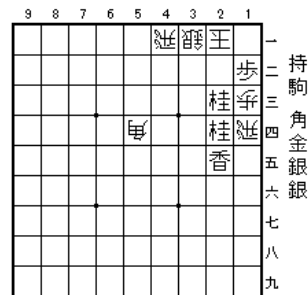
収束部捨駒が良い」

詰鬼人「26金～23飛は巧い狙いで、大駒を捌いての収束も好手順」

もしかすると左右反転した方が、若干不利感が増すか？まああまりヒネたことは考えないようにしよう(笑)。

(詰将棋パラダイス H20・6)

第14番



- ▲22銀 △③同銀 ▲32銀 △同角 ▲11歩成△同銀
 ▲12桂成△同銀 ▲31金 △同飛 ▲11桂成△同玉
 ▲33角迄13手。

③同玉は11角、21玉、32銀以下。

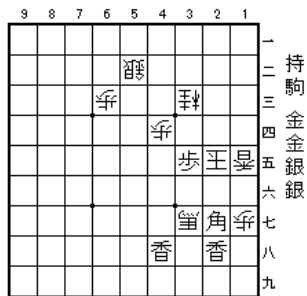
持駒が強力で、しかもいかにも香を働かせたくなる初形。簡単そうだが組み合わせが難しい。例えば3手目11歩成で簡単そうだが同銀、同桂成、22玉でアウト、といった具合だ。7手目12桂成と先に後ろの方の桂を捨てるのがミソで、31金に22玉なら11角でピッタリ詰む。この持駒で角を最後まで残すのは少し意外な展開かも。

14飛が①7手目同桂成の余詰を防ぎつつ、②頭2手の逆算を可能とし、③最終手を限定した上に、④詰上り「リ」の字のあぶり出しにしようー石四鳥のオイシイ配置。これを発見したときの喜びは短編作家の方ならきつとわかってもらえると思う。

いかに一般誌向けなので将棋世界誌に発表。月間優秀作を獲得した。

(将棋世界 H19・6)

第15番



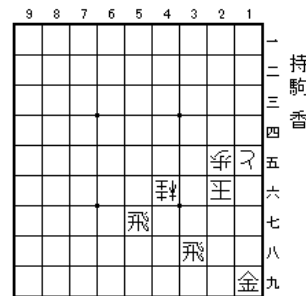
- ▲24金 △同玉 ▲△16角△26飛▲◎同香 △35玉
 ▲46銀 △同馬 ▲◎55飛△045馬▲24銀 △26玉
 ▲56飛 △同馬 ▲27金迄15手。

◎26玉は25金打、同桂、同金、同玉、16角以下。
 ◎28馬や他合は34金、13玉、24銀、同飛、同金、22玉、23金以下。
 ◎同馬は24銀、26玉、27金迄。
 ◎36角は35玉、24銀、34玉、35銀、43玉、44銀、42玉で逃れ。
 ◎34金は14玉、23銀、同飛で不詰。
 ◎65飛以速は45歩、24銀、44玉で逃れ。したがって55飛は限定打。

手の密度という点で、自作中上位に来る作品。変化・紛れの森をくぐり抜けての55飛は、指がしなる手になるのでは。A級順位戦優勝作。
 今川健一「捨合で入手した飛の活躍、良し。おまけは、馬の移動合」
 宮本慎一「4手目26飛中合とはビックリ。55飛から56飛で馬の無能化を図る」
 竹中健一「初手から難しい。取った飛車もうまく消えた」
 初手が自然に入る等、ツキがあった一方、変化・紛れの両立が難しく、52銀・63歩は苦心の配置。52となら一枚で済むが…。

(詰将棋パラダイス H21・6)

第16番

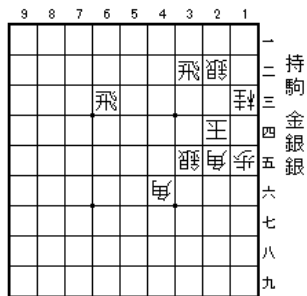


- ▲29香 △28角 ▲同香 △27角 ▲同飛 △16玉
 ▲17飛 △同玉 ▲37飛 △27桂 ▲同飛 △16玉
 ▲17飛 △同玉 ▲29桂 △16玉 ▲27角 △26玉
 ▲17角迄19手。

詰将棋全国大会の握り詰入賞作。いきなり角の連続捨合という大技が飛び出す、論理はいたって簡単で、歩は二歩、桂は5手目同香～18飛、それ以外は6手目の局面で打てば詰み。二枚角を手にしたところで盤上の飛車を二枚とも捌き捨て、最後は角をベタベタ打って詰み。普通なら絶対にありえないセンスの収束だが、連続捨合でもらった角なので、逆にユーモラスに感じられる。人間心理というのは不思議なものだ。
 ぶら「こーゆうの好きです。初見見て解こうって気にさせてくれます。内容もあって詰将棋の面白さをやさしく教えてくれてるようです」
 首猛夫「いいね、これ。詰上がりもこれでいいと思う。捨て味より切れ味」
 須川卓二「まさに握り詰らしい好作ですね」

(詰将棋パラダイス H17・9)

第17番



- ▲23金 △14玉 ▲13金 △24玉 ▲23金 △14玉
- ▲24金 △同玉 ▲13銀 △14玉 ▲23銀 △同銀
- ▲24銀成△同銀引 ▲12飛成△同銀 ▲26桂迄17手。

「24玉・32飛・63飛の形で32飛が横に動くくと玉が3筋に逃げられる形」をスタート地点に暗算創作したもの。ただし収束や余詰検討等の仕上げは盤駒使用。最後まで暗算でやれる技能が欲しいなあ(笑)。

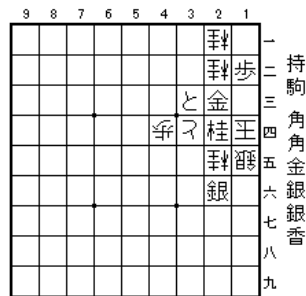
最終手を除く全ての詰手が捨駒で、また全ての応手に変化が付き纏うが、どの変化も異常に短いあたりは、いかにも暗算創作。内容は普通の手筋モノだが、軽い趣向詰のような雰囲気を持っていて、お気に入りの小品。

中村雅哉「リズムカルかつ巧妙な手順で、これが暗算創作とは脱帽です」
チャンボコ「持駒の使い方がうまいと思いました」

ほい「軽くて気持ちが良いです」

(冬眠日記 H22・5)

第18番



- ▲13金 △同玉 ▲14銀 △24玉 ▲23銀成△14玉
- ▲13成銀△同玉 ▲35角 △◎同と ▲14銀 △24玉
- ▲23銀成△14玉 ▲24金 △同銀 ▲13成銀△同玉
- ▲14香 △同玉 ▲32角 △13玉 ▲23角成迄23手。

◎24金合は14香、同玉、23銀、同金、15銀、同玉、26金以下。この変化のため、35角は限定打。

密集した小駒図にボリュームのある持駒で腰が引けそうだが、実は14銀～23銀成～13成銀を繰り返す軽趣向作。24桂を消去することで35角が打てるようになり、と金をすらすらすることで24金と捨てて退路を封じることができる仕掛け。

加賀孝志「14に玉を持って来る、33とがブラなので一苦労、ダダッ子をあやす母親、穴をふさいで眠りにつく」

凡骨生「14銀打～23銀成のリフレインが心地よい」

野口賢治「邪魔駒を消した跡地の退路塞ぎが詰将棋」

頭2手を追加。当然の一手だが、主題に合わせてみた。

(詰将棋パラダイス H18・7改)

第19番



- ▲43角成△◎77金▲64龍 △◎86玉▲95角成△◎同金
 ▲98桂 △同と ▲87金 △同金 ▲84龍 △同香
 ▲53馬 △85玉 ▲75馬迄15手。

◎77金は42角成以下。76金は42角成、66玉、76馬、56玉、57金以下。
 ◎同玉は65金、63玉、55桂、72玉、77香以下。
 ◎同玉は94龍、86玉、98桂、同と、87金以下。

龍をどかして馬を寄って詰め、がやってみたかった形。87金、同金を逆算した段階で、「この金を捨合で出せるよう頑張りよう」と目標を立てた。なので、以下この初手に至るまでの逆算は全て2手目の移動捨合成立を目指して入れたもの。制約が厳しくて収束を2手延ばさざるを得なかったが、なんとか当初の狙いを実現できた。不器用な私にとっては、かなり稀有な体験であり、そういった意味で印象深い作品。

宮浦忍「64龍で一気に綱を絞る」

野口賢治「移動中合以下すべてがカレイでカッコ良し」

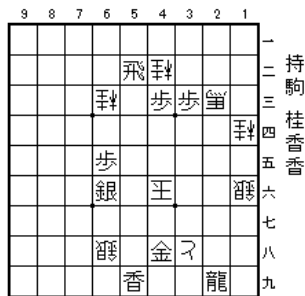
近藤郷「大胆な動きの中に緻密に計算された配置と手順がある。好みの作です」

真保千秋「強手がこれほど続くとは驚き」

移動合実現までが精いっぱい、序奏等の飾りを入れる余裕は一切なし。ただその一方で配置に関してはベストをつくしたつもり。一見多いように見えるが、どの駒も複数の変化・紛れに関与しており、機能的には好形と思う。ダイナミックな作意の裏にある、この張りつめた感じを汲みとっていただいたのか、B級順位戦で首位を獲得した。

(詰将棋パラダイス H17・6)

第20番



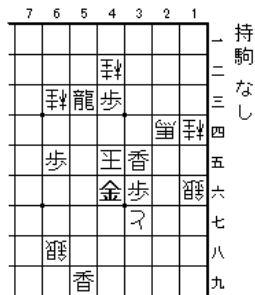
- ▲47金 △45玉 ▲56飛成△44玉▲55銀 △◎33玉
 ▲44銀 △◎同玉 ▲53龍 △34玉 ▲36香 △◎35歩
 ▲同香 △同玉 ▲◎36歩△34玉 ▲35香 △45玉
 ▲◎56龍△44玉 ▲24龍 △◎同馬 ▲53龍 △45玉
 ▲37桂 △同と ▲46金 △同玉 ▲56龍迄29手。

- ◎34玉は35香、44玉、36桂以下。
 ◎53玉は64銀、44玉、53龍、34玉、35香、同玉、36香、45玉、56龍、44玉、53銀生、43玉、35桂以下。
 ◎22玉は23龍、同玉、15桂、12玉、13香、同玉、31角、24玉、35銀、同玉、13角成、34玉、23馬、25玉、26香、同桂、36金以下早い。
 ◎●桂(打)合は品切れ。
 ◎36香は45玉、56龍、44玉、24龍、同馬、53龍、45玉、37桂、同と、46金、同馬で逃れ。
 ◎先に37桂は同と、56龍、44玉、24龍のとき34桂打合で逃れ。

制約美の世界である詰将棋においては「理屈は成り立つのだが、図化するの難しい論理」というものがあると思う。変化・紛れ・作意が紙一重だと、「ある作意を成立させた瞬間に、変化が詰まなくなったり、紛れが余詰んだりする」といった事態が、ごく当たり前に発生する。このため、構想作では舞台設定がかなり重要な意味合いを持つ。

本作の狙いは「後の局面で馬筋を遮るため、普通に香を打てる所を歩香重ね打ちする必要があり、その歩香重ね打ちをするために歩を事前に消去しておくこと」である。言葉にすると「なんだそりゃ？」であるが、最終3手前の局面が全てを物語る。

途中図(27手目46金迄)



右の図がそれ。この図で36歩・35香が仮に36香一枚だったとすると、46金に対して同馬で不詰。したがって、15手目の局面で、単に36香ではなく、36歩~35香と重ねて打つ必要がある。しかし33歩が残っているのは36歩が二歩で打てないわけで、このことから、55銀~44銀として事前に33歩を消去する手が必要になるわけだ。

理論としては難しくないが、実現までの作図ハードルは相当に高かった。舞台設定を変えればもう少し簡明に出来るかもしれないが、謎解きとしての妙味も残しておきたい。そういった意味で、本作は満足できる展開。歩消去にともなう変化が厚い分、構想発見の瞬間の喜びを解答者の方にと与えられるのでは、と思う。

s s 「見たことのない構想。馬筋を遮り、歩香を重ね打ちするため、33歩を消去する」

詰鬼人「序の変化がなかなか難しく、36歩から35香の団子打ちも面白い手です」

須川卓二「二歩禁がらみの作品の佳作は久しぶりだ。55銀がやりにくい手になっているのも見事」

こういった構想作は根気と着想の双方が必要。大変は大変だが、創作の醍醐味を味わえる。いつかまた、こういう作品で目にかかり、少しでも解ける感動を与えられれば、と思う。

あとがき

第4集にして初めてあとがきも付けてみました。印刷したときに最後の紙の裏が白い方がいいかな、と。それだけの理由です（笑）。

ブログ「冬眠蛙の冬眠日記」を始めたのがミニ作品集③を作る少し前でしたが、この④にはブログ発表作も結構多く収めています。「詰バラや将棋世界に出せばよいのに」といったコメントをいただいたりしたことも何回かありますが、個人的には雑誌発表とブログ発表にあまり差を感じていない、というのが正直なところ。思いついたときにすぐに掲載できて、感想もリアルタイムに確認できる点では、ブログのほうがベターといえる部分もあるかも。

もちろん、そんなことが言えるのはコメントをただけてこそ、なので私の駄文に付き合っていたいただいている皆さんには感謝あるのみ。今後もあまり質が上がることは見込めないのですが（汗）、よろしくお付き合いをお願いしたいと思います。